

妙法院概要

伝統的な説明によると、妙法院は9世紀に僧侶の最澄（767～822年）によって創建されたとされている。最澄は密教の一派、天台宗の創始者である。しかし、妙法院が歴史資料に最初に登場するのは、12世紀末、後白河上皇（1127～1192年）がこのすぐ近くに巨大な寺院・宮殿の複合施設を建設していた時のことである。そのあたりの頃から、妙法院は「門跡」の寺院として非常に特別な地位を占めるようになっていた。門跡とは、皇族出身者が住職を務める寺のことである。皇室との非常に近い関係により、妙法院はこれまで7世紀にわたって、常に強力な後ろ盾を得て、保護を受けることができた。その中でも特筆すべきなのが、武将の豊臣秀吉（1537～1598年）から与えられた贅沢な支援である。秀吉は、16世紀末に様々な建物の改修や新築に資金を提供した。これには、現在も残っている庫裏や大書院が含まれる。庫裏は国宝に指定されており、大書院は重要文化財である。秀吉は妙法院を、方広寺の巨大な仏殿を中心とした、より大きな複合施設の一部に組み込んだ。この複合施設は長くは持たなかったが、妙法院は制度上は現在も近くの三十三間堂や方広寺と結びついている。